

1 . はじめに

平成14年度に改訂実施された中学校学習指導要領により，技術・家庭科の領域構成や履修方法は，大幅に改められた。技術分野で「技術とものづくり」「情報とコンピュータ」の2つの内容に整理・統合されたこと，3年次の授業時数が年間35時間に削減されたことなどである¹⁾。このため，地域や学校によって学習内容に差が生ずるので，題材の選択や構成，学習指導法などの面で新たな研究が一層必要であると考えられる。そして，これらのことが技術・家庭科の将来のあり方に大きな影響を与えることも予想される。

今回は，平成3年・平成6年に調査した前回調査に対応して，移行期間から完全実施以後における「山形県内中学校技術・家庭科の教育課程履修動向の時系列的変容と実態」を把握しながら，「教育現場から見たものづくりで学ぶ基礎・基本の実態」について明らかにし，技術・家庭科の将来像を模索する基礎資料を得ることを目的とした。

そこで，以下にあげる3つの柱を設定し，新教育課程の問題点を明らかにして，技術・家庭科の将来像を模索する基礎的な資料を得ることを目的として調査を行った。

- ・ 山形県内中学校技術・家庭科の教育課程の実態について
- ・ 前回調査との比較による時系列的変容について
- ・ 山形県内技術・家庭科担当教師の意識について

2 . 調査方法

この調査は，山形県公立中学校130校を対象として，学校長，平成15年度技術・家庭科担当主任宛てに，依頼文，質問紙を郵送して，実態と教師の意見について調査を行った。

質問紙に対する回答は72校から得られ，回収率は55%であった。

集計に当たっては，「質問紙によるアンケート」を中心に整理し，不明な箇所については，同時に送付を依頼した「平成15年度技術・家庭科（技術分野）年間指導計画」で，学校の学習指導の実態を調べて補足した。

調査時期は，平成15年8月20日から9月16日までとした。

集計手段は，Microsoft Excelによって行った。

3 . 調査内容

調査内容は，次ページ以降の質問紙に示すように，前回の調査に準じて設定し，以下のようにした。

- 1．学校の概要について
- 2．平成15年度年間指導計画（必修の時間）について
- 3．A「技術とものづくり」における製作題材について
- 4．中学校在学中に学習する内容（A「技術とものづくり」における指導内容の重視項目とその程度）について
- 5．新学習指導要領実施にあたっての教師の意見について
- 6．Eメールアドレス